

2011年11月22日

JTB グループ労働組合連合会 第4回震災復興ボランティア 活動報告レポート

報告者：太田 隆治（JTB関東）

活動期間：2011年11月20日（日）～21日（月）

宿泊地：北上「ホテルメッツ北上」

活動地：陸前高田市

参加者：27名

【11月20日（日）】

朝7時15分、ホテルフロントにて受付開始。各自、ボランティアの服装に着替えた状態で集合する。天候は晴れ。11月下旬という時期もあり、気温が低いことを心配していたが、寒さはさほど感じることはなかった。参加者はあらかじめ4つの班に分けられており、2日間を通して班毎の活動を行なった。2台のバスに分かれてバスに乗車。

7時30分、予定通り陸前高田市のボランティアセンターにむけて出発。ホテルからボランティアセンターまでは約2時間の道のりであった。バス内にて、JTBグループ労働組合連合会のボランティア活動の取り組みについての説明を行なった後、参加者に今回のボランティア活動内容、および1日目のスケジュールを説明。今回の作業内容は「畑または田んぼの瓦礫の撤去」である。

約60分後、途中のコンビニエンスストアにて昼食を購入。コンビニエンスストア、ボランティアセンターともトイレの数が少ないことから、ボランティアセンター手前500メートルの「川の駅」にてトイレ休憩。

9時30分、ボランティアセンター到着。各自、長靴に履き替え、バスを下車。幹事1名が先に到着していたため、受付は終了していた。ボランティアセンターよりステッカーを受け取った後、活動の進め方、注意事項についてレクチャーを受ける。ボランティアセンターは設置されずいぶん立つことから、受け入れについては大変スムーズであった。ボランティアセンターには各地から贈られた千羽鶴や寄せ書きが掲示されており、日本全国の「つながり」を感じる瞬間であった。各自、作業に必要なスコップと一輪車を積み込み、活動現場へ。道中、港のそばを通過したが、一面更地がひろがり、流されずに残ったボロボロの建物がいくつか壊されないまま残っていた。更地には瓦礫の山と被災地から集められた、原形をとどめていない車があり、被害の大きさと復興の道のりがまだまだ長いものであることを改めて実感。

到着後、作業道具を持って現場へ移動し、各班に別れ、作業を開始。田んぼから瓦礫を集め、一輪車で瓦礫を道路の脇に運ぶ作業。無理することなく、こまめに休憩を挟んでの活動であった。

活動現場は前日までの雨と、元々田んぼであったため、用水路からの水が流れ込んでおり、場所によってはぬかるみがひどく、歩くのに体力を要し、また瓦礫を運ぶのに一苦勞であった。比較的暖かく、少しすると暑さのため、着込んできた洋服を脱いで体温を調整しながら作業。皆がそれぞれ自発的に、またお互いに協力し合って作業を行っていた。土地の所有者が挨拶に出てきてくれ、震災の被害の状況を教えていただいた。相当高いところまで水が迫ってきたことや、作業地には遠くから流されてきた家がしばらく放置されたままであったことなどを教えていただいた。

14時30分に作業終了。ボランティアセンターへ戻る途中、「一本松」を車窓より見学。海の傍には何万本という松の木があったが、すべて流され、たった一本だけが奇跡的に残りポツンと立っていた。感慨深げに写真撮影し、心に焼き付けたあと、ボランティアセンターへ。到着後、消毒とうがい薬が用意されており、各自消毒。センターには温かい飲物とお菓子が用意されており、疲れた体には大変ありがたかった。センターを出発後、往路同様川の駅でトイレを済ませ、ホテルへ。

夜は参加者全員で夕食会を開催。ボランティア、というきっかけで全国各地から集まったJTBグループの参加者とそれぞれ懇親を深めることができた。全員から自己紹介と一言をいただき、同じグループで働く仲間との「絆」を感じることもできた。

【11月21日（月）】

朝7時15分、ホテルフロントにて受付開始。天気予報では最高気温が6度となっており、朝から雪がちらつく中、各自寒さに備えて集合する。

7時30分、予定通りボランティアセンターにむけ出発。2日目のため皆要領を得ており、スムーズな出発であるが、

9時30分、予定通りの時間にボランティアセンター到着。雪の状況によってはボランティア作業ができないかもしれない、という不安があったが、到着したころには雪も小降りになっており、1日目同様、レクチャーをうけるが、昨日に遺体が発見されたこと、釘が刺さって怪我人が発生したことを伝えられ、改めて気を引き締め、作業道具を積み込んで現場へと向かう。2日目の作業内容は、1日目に作業した脇の草むらの草刈と、そこに散乱している瓦礫の撤去であった。

10時頃現場に到着。バスを降り、なれた手つき、足取りで作業場へ。班毎にエリアを決め、作業スタート。天候も、風は冷たいものの作業場につく頃には青空が見えはじめ、ボランティアの方同士のコミュニケーションもよく、順調に作業をすすめる。

14時30分には作業を終了し、ボランティアセンターへ。その後一ノ関の銭湯に立ち寄って汗を流し、疲れを癒し、18時40分一関発のJRで帰路につく。

【まとめ】

11月下旬ということもあり天候が心配されたが、怪我やトラブルもなく、2日間のボランティア作業をしっかりと行なうことができた。日本全国からの参加された方々と2日間を共にし、こうした活動の必要性を感じる方が、同じJTBグループにたくさんいることが、働く仲間として頼

もしく思えた。復興はまだまだ道半ばであり、さらに再生までは長い時間を要することを改めて実感したが、絆を大切に、自分自身でできることを継続して行っていきたいと思う。